

ニセコ町人口ビジョン骨子（素案）

＜本資料の位置づけ＞

- 「ニセコ町人口ビジョン」の策定は、人口動態などの「客観的データ」や町民アンケート結果などに基づき、人口減少社会における町の地域課題や影響を見出すプロセス。
- 今回は、「ニセコ町人口ビジョン」の輪郭（ストーリー）が把握できるよう、目次、盛り込むべき客観的データ及びその結果が示している町の状況、人口推計結果などを示したペーパー。
- 第3回ニセコ町自治創生協議会では、第2回協議会の議論を踏まえ、「ニセコ町人口ビジョン」（案）を取りまとめていく考え。

＜特に議論いただきたい点＞

1. 人口推計結果のうち、ニセコ町の実態を反映した現状推計と将来像はどれか。
2. 「ニセコ町人口ビジョン」を介して、町の地域課題や影響が、客観性とともに分かりやすく示されることが見込まれるか。
3. 人口減少社会の克服のために「ニセコ町総合戦略」において対応すべき、本質的な町の地域課題や影響について、漏れや抜けがないか・極度に恣意的になっていないか・重点化できているか（＝総花になっていないか）

I. 「ニセコ町人口ビジョン」の位置づけ

まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条に基づく「ニセコ町総合戦略」の策定にあたり、ニセコ町における人口の現状と将来の展望を「ニセコ町人口ビジョン」として提示する。

II. 「ニセコ町人口ビジョン」の特徴

<人口>

人口 5,000 人規模の町村では珍しく、近年は人口が微増傾向

【社会増】

- ・ 10 歳未満や 30～44 歳で、転入数が転出数を上回る
- ・ 20～30 代の移動（転入・転出）が特に多い

【自然減】

- ・ 死亡数が出生数を上回る
- ・ 近年は出生数が増加傾向にあり、合計特殊出生率は北海道全体を上回る（合計特殊出生率：1.45（2008～2012））

<雇用>

- ・ 従業者数は「農業・林業」と「宿泊業、飲食サービス業（観光業）」が多い
- ・ 正規職員割合が低く、完全失業者数が増加傾向

<メッセージ性>

- ニセコ町は人口が増加傾向にある稀有な自治体。その理由を精査して「ニセコ町人口ビジョン」に盛り込むことで、地方創生の最先端の取り組みとして全国に発信してニセコ町全体の誇りにもつなげ、ニセコ町まちづくり基本条例が目指す「住むことが誇りに思えるまち」を実現する。
- 一方、全国的な人口減少が進んでいく中、将来にわたりこのまま人口増加が続いていく保証はない。このことを踏まえ、現在の人口増加傾向に満足することなく、町全体で当事者意識を持って「自治創生」に取り組む姿勢が重要。
- 将来への影響（町全体の危機感）としては、以下の点が考えられる【今後精査】
 - ・（総人口が減らずとも）老年人口が増加していく可能性はないか？
 - ・ 集落単位では影響を受けてしまう可能性はないか？

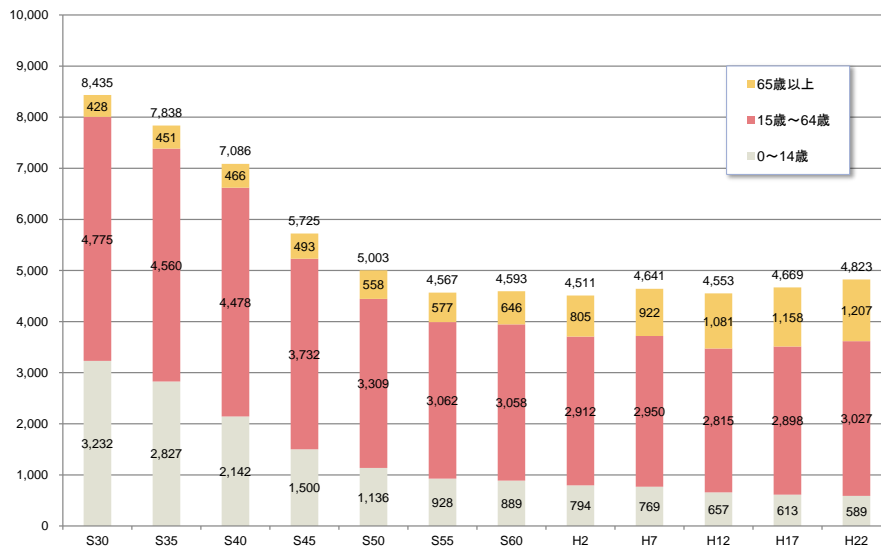
Ⅲ. 人口分析結果

1. 人口の現状分析

ア 人口動向分析

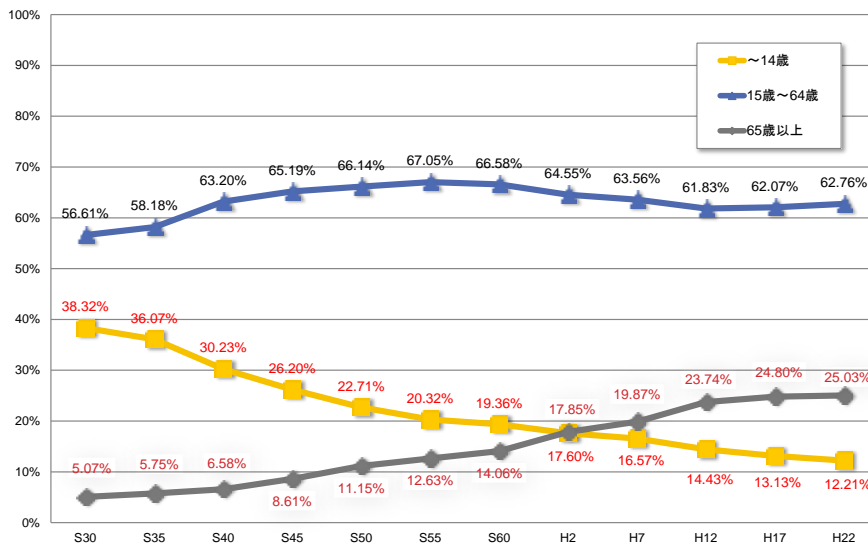
＜総人口＞ （出所：国勢調査）

1980年以降横ばいで推移してきたが、近年は増加傾向。人口が増加傾向にある稀有な自治体。



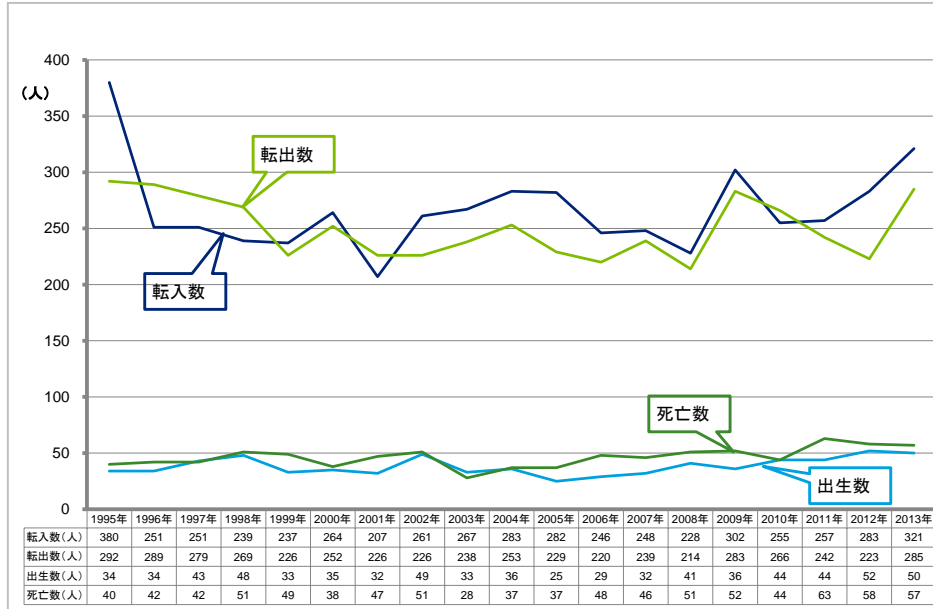
＜年齢区分別人口＞ （出所：国勢調査）

生産年齢人口及び年少人口が減少している一方、老年人口は増加している。将来は、高齢者の増加に伴い、除雪・買い物・医療などの課題が顕在化することもあると考えられる。



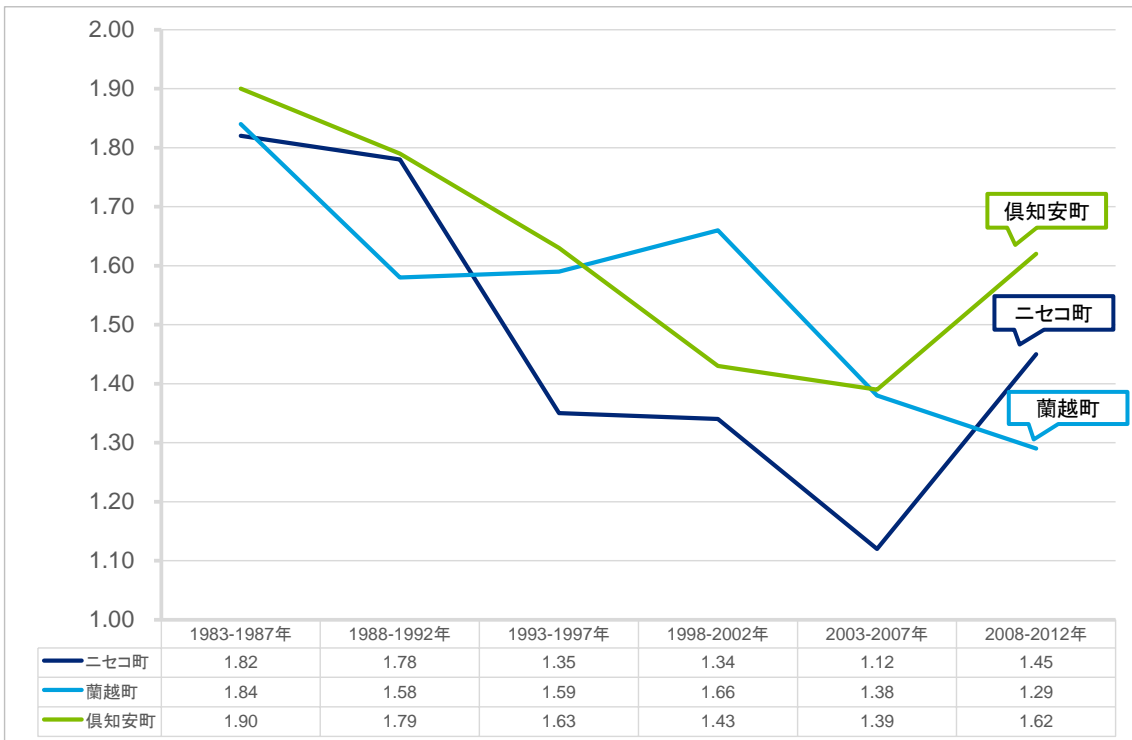
<転入数・転出数、出生数・死亡数> (出所：住民基本台帳)

ニセコ町の人口増加は、社会増（転入数が転出数を上回る）によるもの。
出生数が死亡数を下回る自然減の傾向にあるが、出生数は増加傾向にある。



<合計特殊出生率> (出所：人口動態調査)

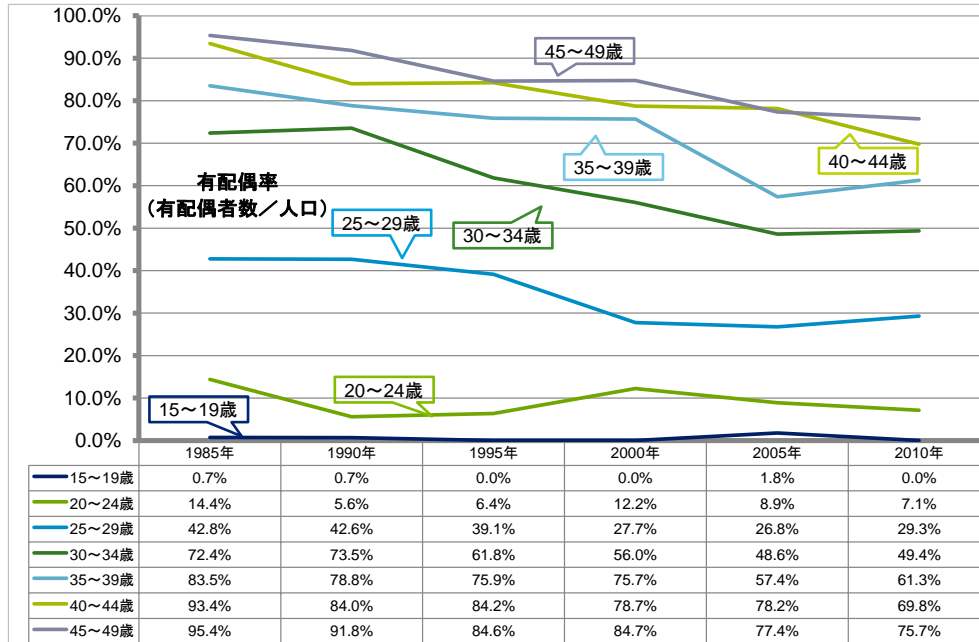
近年増加に転じた。なお、北海道や札幌市よりも高水準にある。



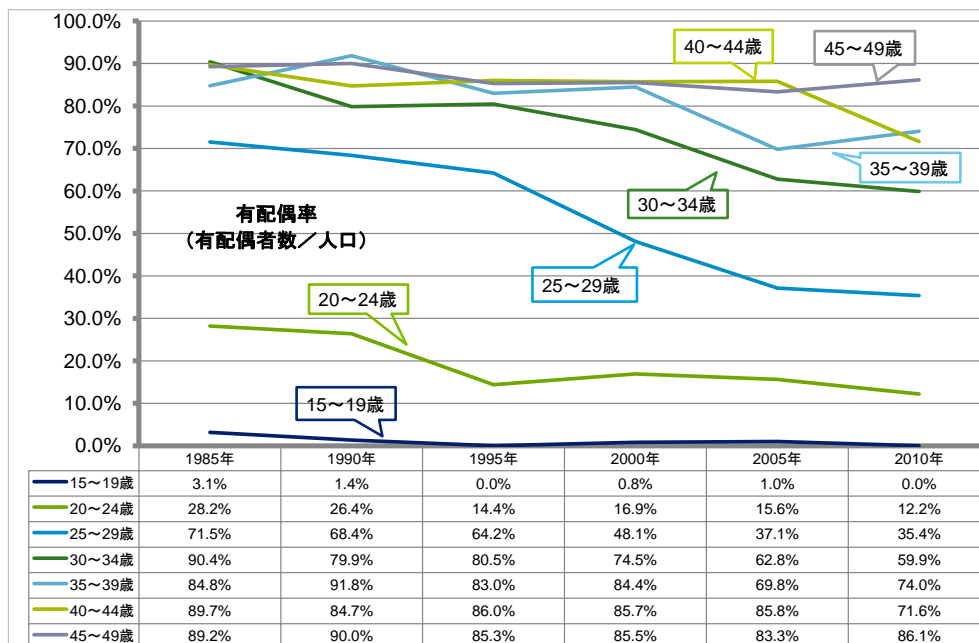
<有配偶率> (出所：国勢調査)

全国や北海道よりは高い水準であるものの、減少傾向にある。

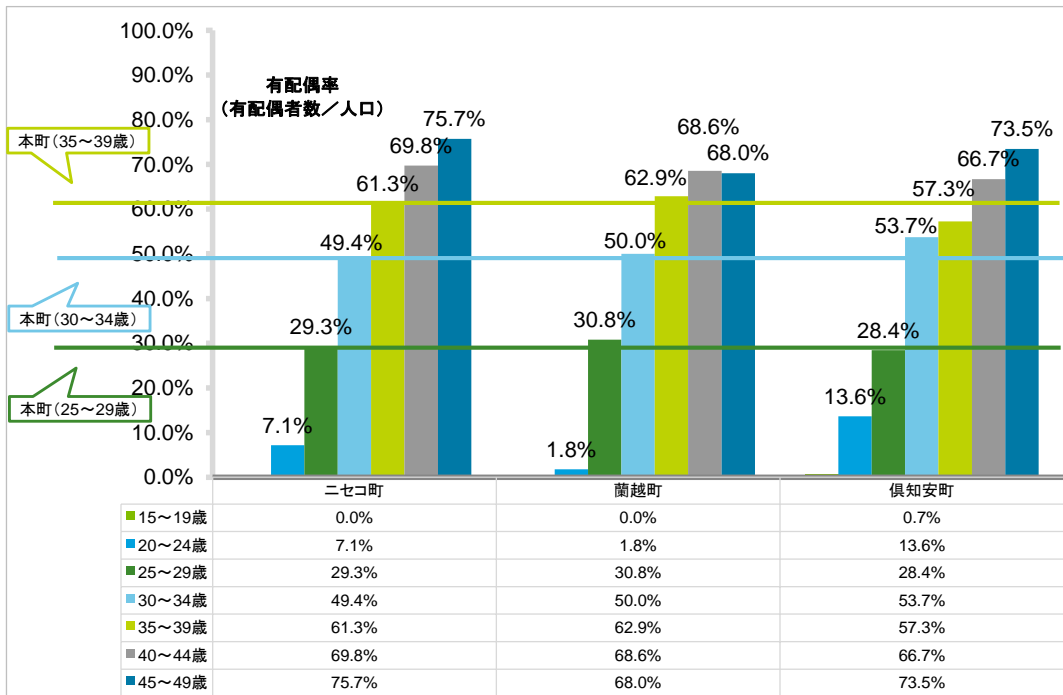
(男性)



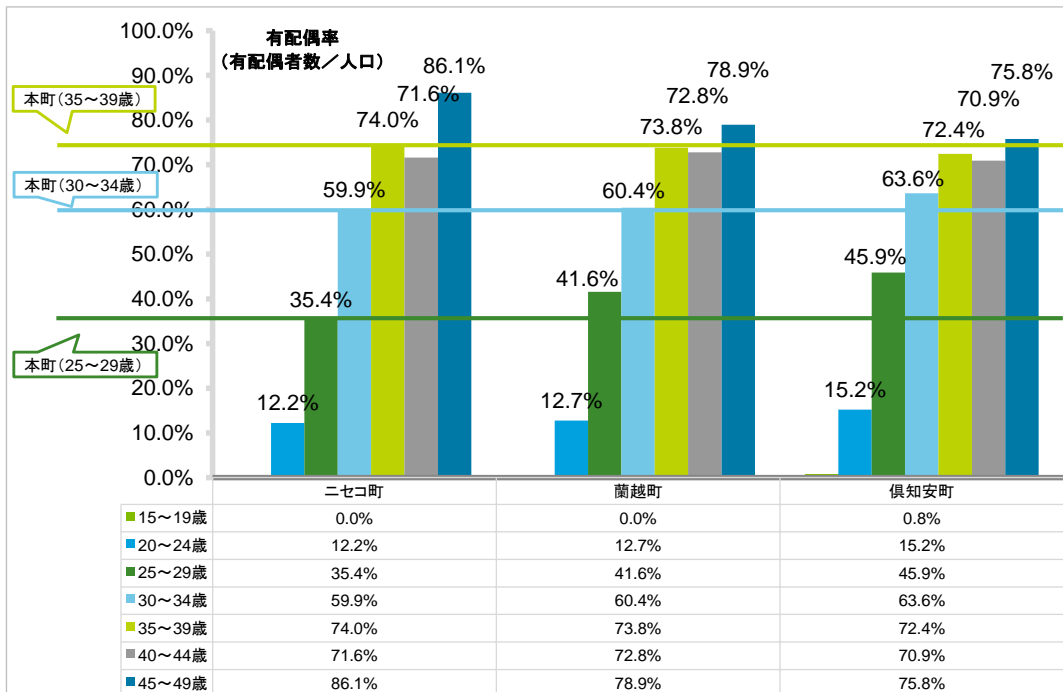
(女性)



(男性)



(女性)

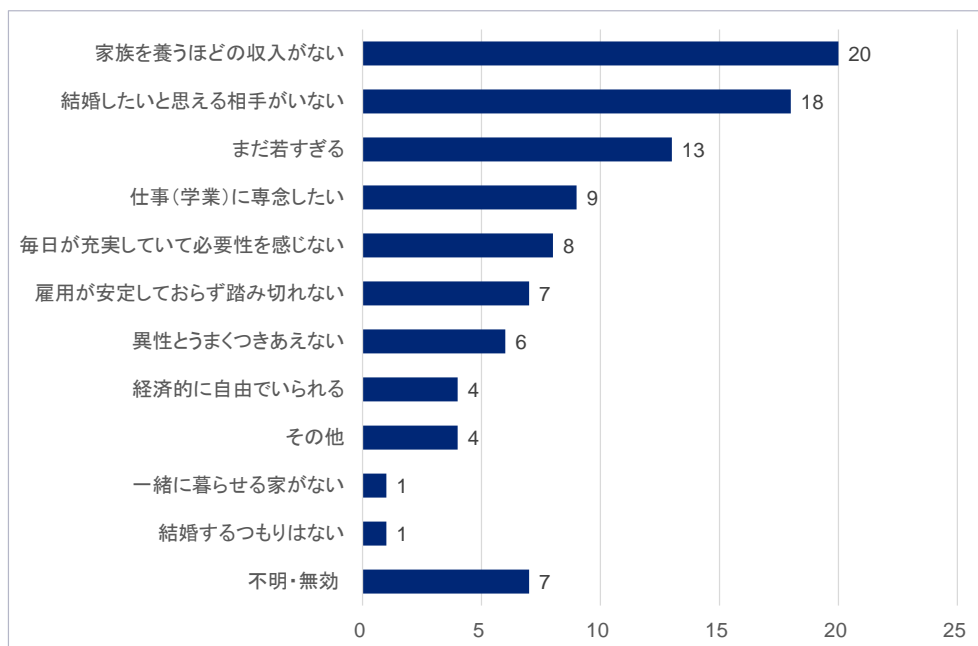


<未婚の理由>

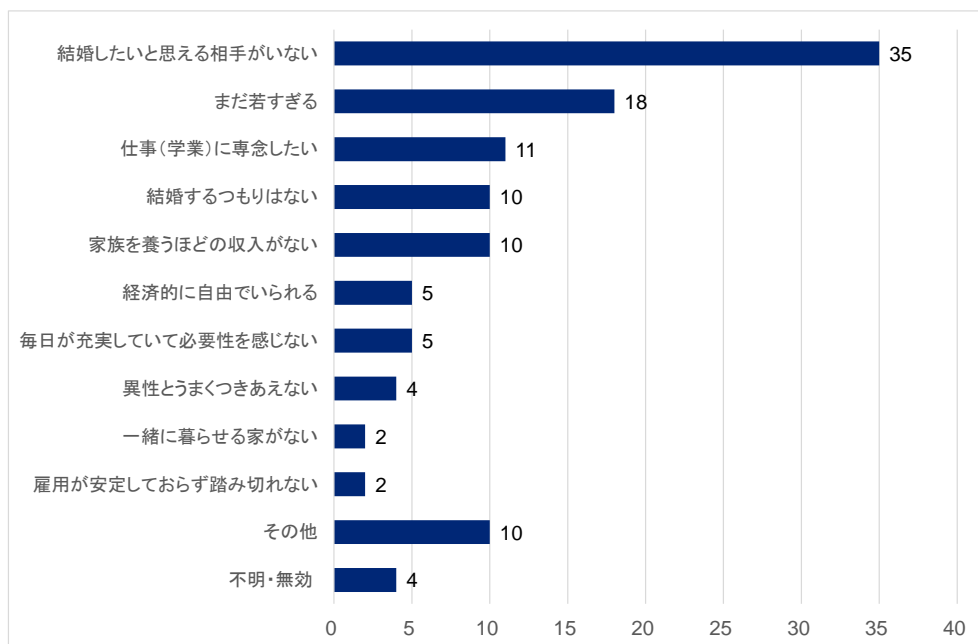
(出所：ニセコ町民アンケート(平成27年8月実施))

「結婚したいと思える相手がいない」が多く、特に男性は「家族を養うほどの収入がない」も多い。

(男性)



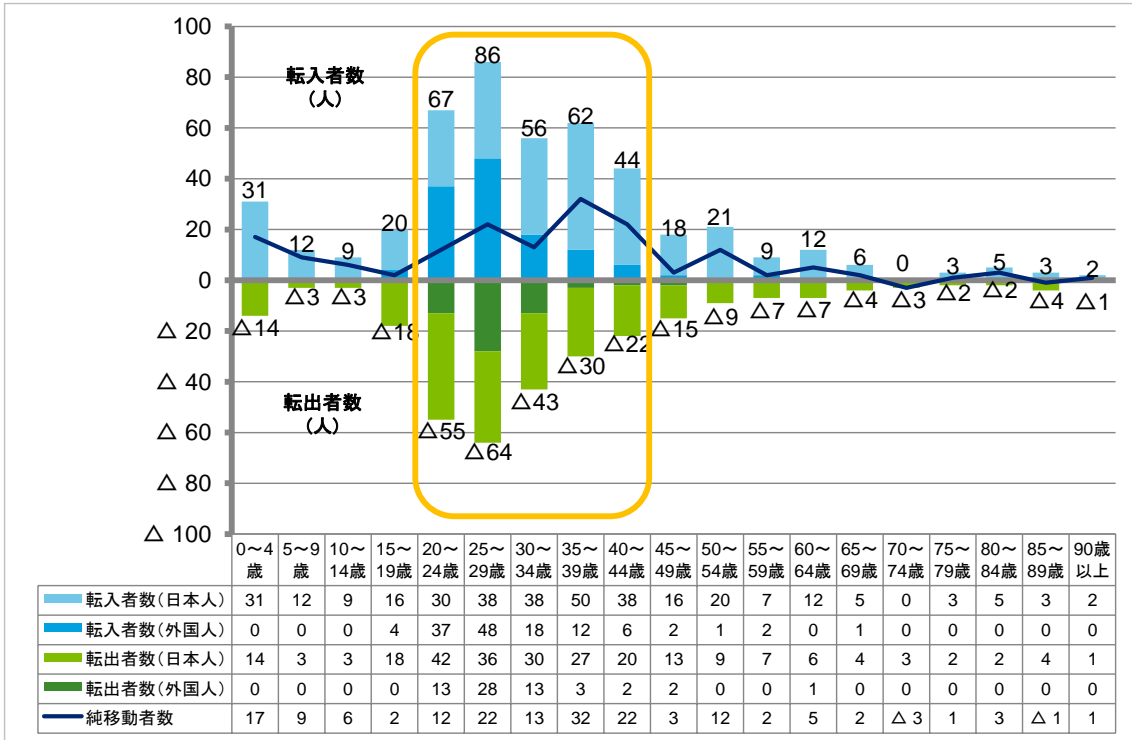
(女性)



<転入数・転出数（外国人含む）> （出所：住民基本台帳移動報告（2014年））

転入数、転出数とも200～300人規模の増減を繰り返している中、日本人・外国人とも、転入数が転出数を上回る社会増の傾向にある。

（転入数・転出数）

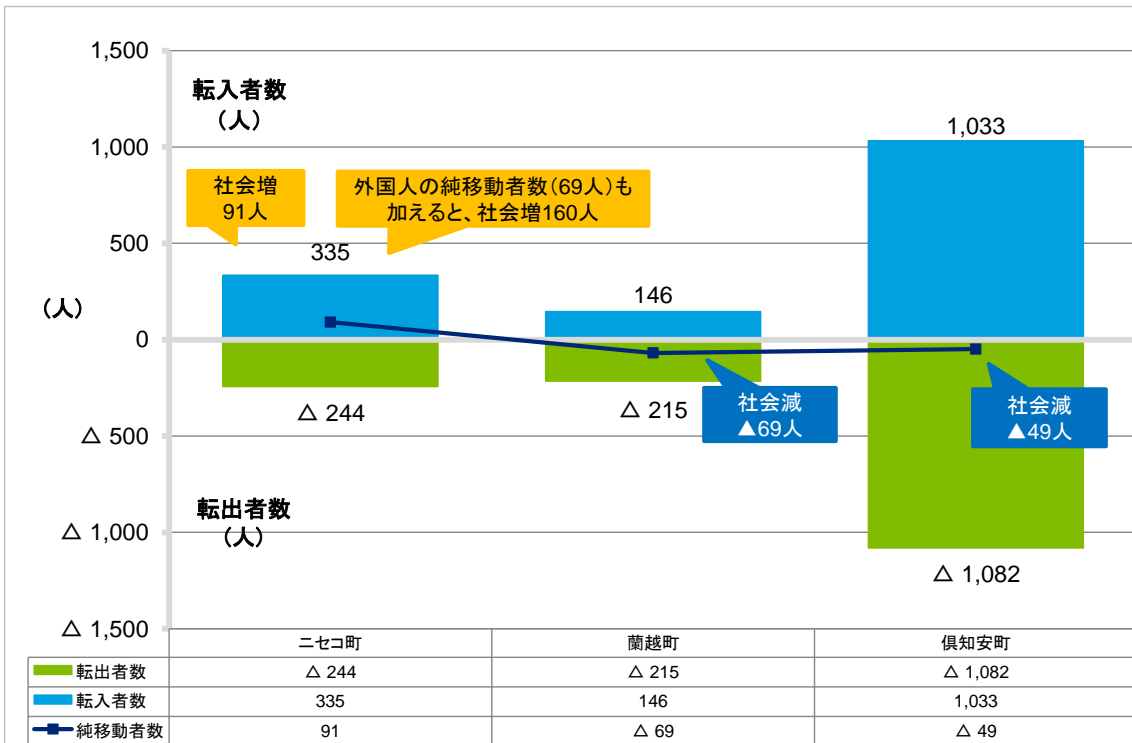


課題： 若年層の人口流出（※流出・流入は同規模）

<転入数・転出数・純移動者数の比較（日本人のみ）>

（出所：住民基本台帳移動報告（2014年））

蘭越町、倶知安町が社会減であるのに対して、ニセコ町は社会増である。

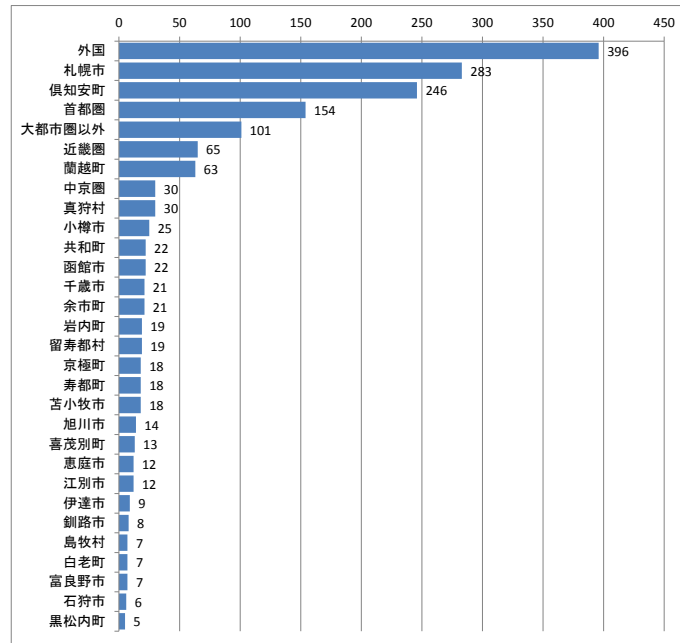


<転入元・転出先>

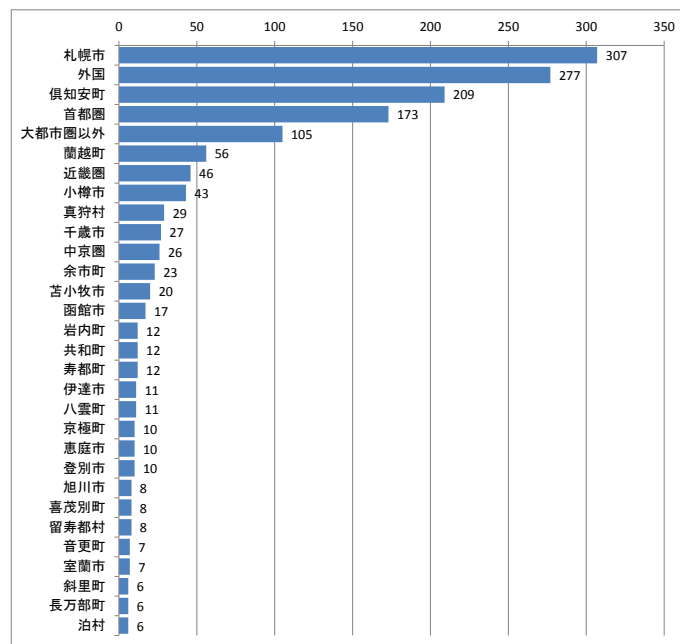
(出所：ニセコ町「戦略的住まい・まちづくり」政策検討会議平成26年度中間報告書
(平成27年3月)、平成21年度～25年度の5年間計・住基台帳)

倶知安町(+37人)や海外(+119人)は転入超過であるのに対して、首都圏(▲19人)や札幌市(▲24人)は転出超過である。

(転入元)



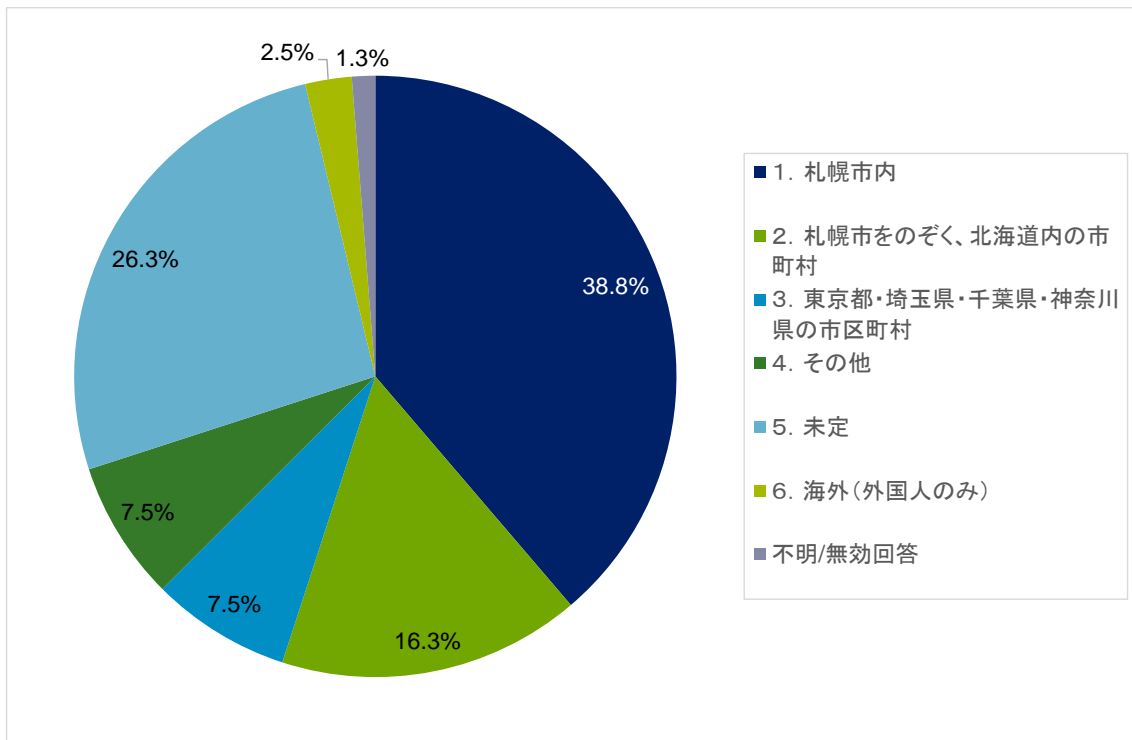
(転出先)



<希望転出先（アンケート）>

（出所：ニセコ町民アンケート（平成27年8月実施））

転出を考えている町民のうち半分以上が道内、うち約4割が札幌市への転出を考えている。

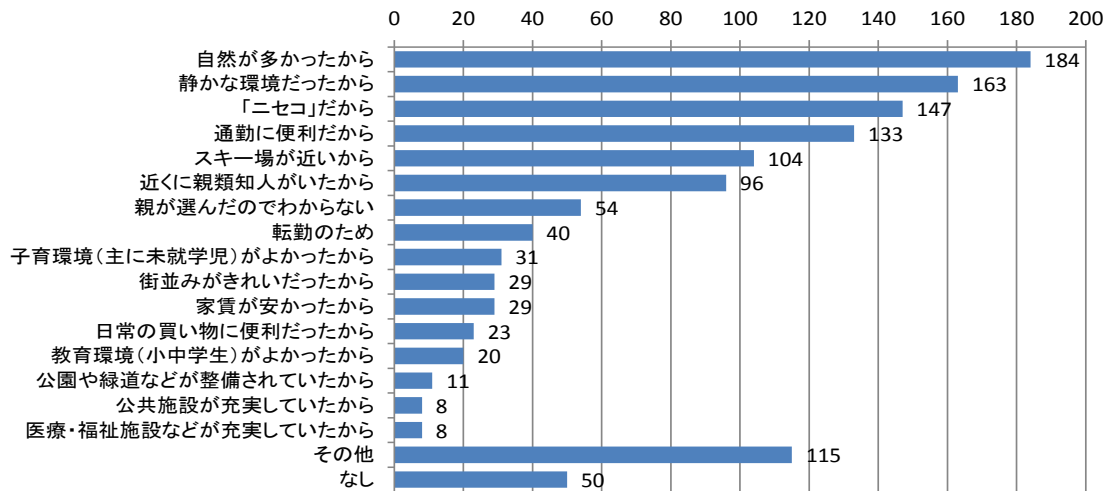


課題： 対都市圏（首都圏・札幌市）で人口流出超過

<ニセコ町を選んだ理由（アンケート）>

（出所：ニセコ町「戦略的住まい・まちづくり」政策検討会議平成26年度中間報告書（平成27年3月））

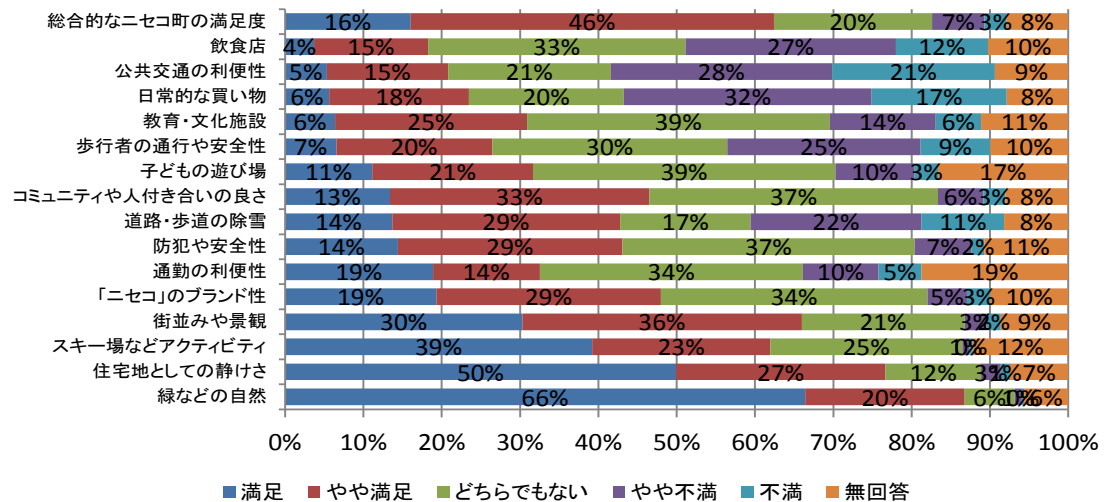
居住者は「豊かな自然環境」や「ブランドカ（ニセコだから）」に惹かれている。



<ニセコ町に居住しての満足度（アンケート）>

（出所：ニセコ町「戦略的住まい・まちづくり」政策検討会議平成26年度中間報告書（平成27年3月））

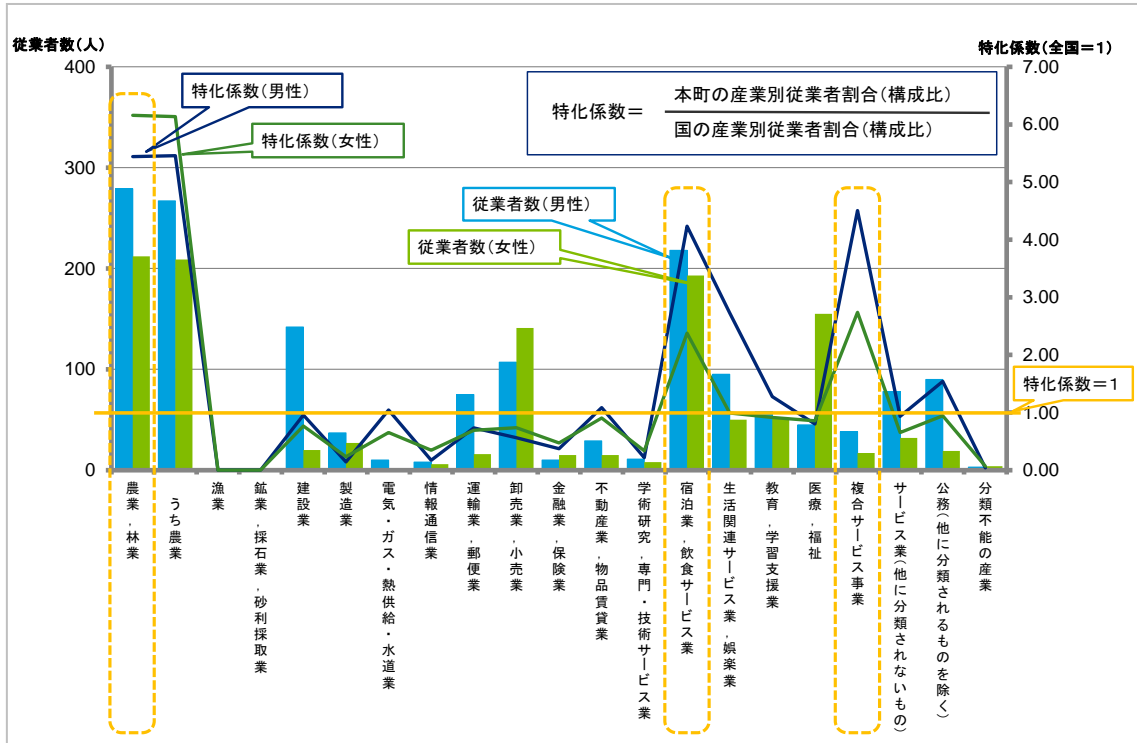
居住者の満足度が特に低いのは「飲食店」「買い物」「公共交通」である。



〈産業別従業者数〉 (出所：国勢調査(2010年))

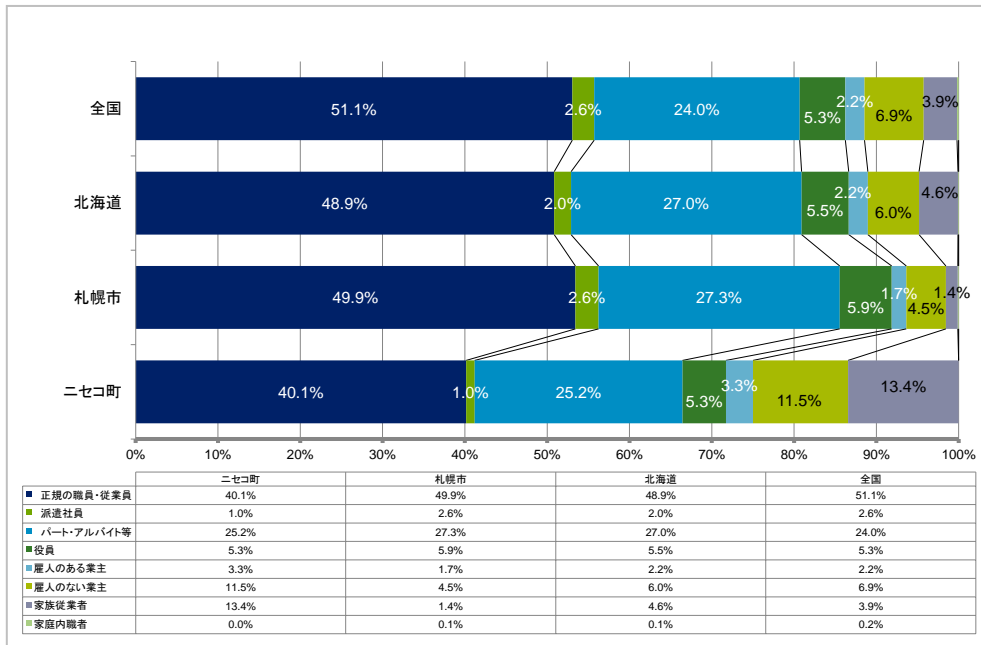
「農業・林業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「卸売業・小売業」が多い。

特化係数では、「複合サービス事業」(郵便局や協同組合)も多い。



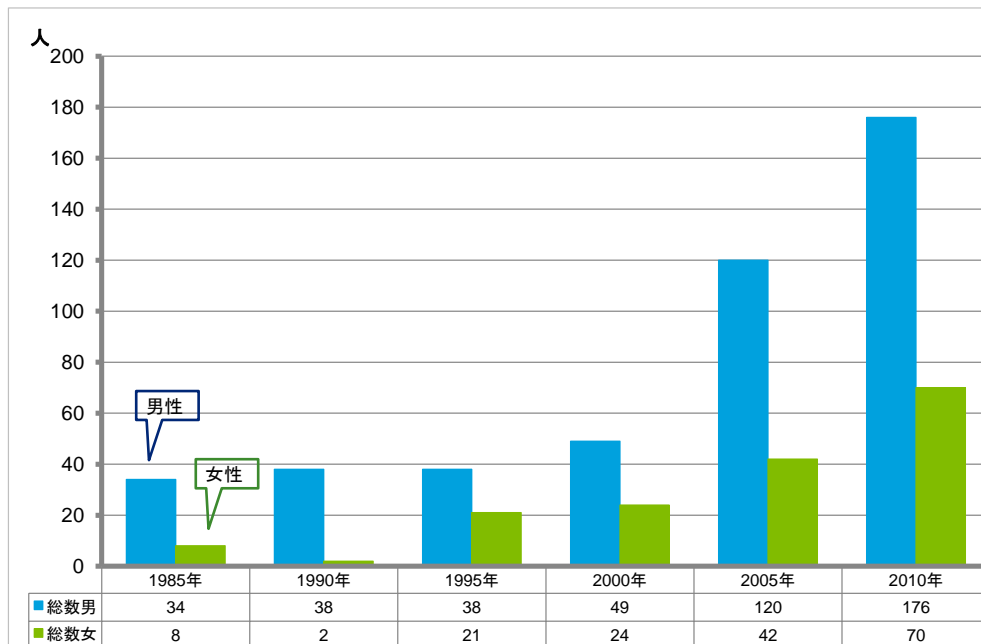
<正規職員割合> (出所：国勢調査(2010年))

正規職員割合自体は全国や北海道よりも低いものの、家族従業者（農家や個人商店などで、農仕事や店の仕事などを手伝っている家族）や家庭内職者（家庭内で賃仕事（家庭内職）をしている人）が多い。



<完全失業者数> (出所：国勢調査)

増加傾向にあり、特に2000年以降、特に男性が顕著である。



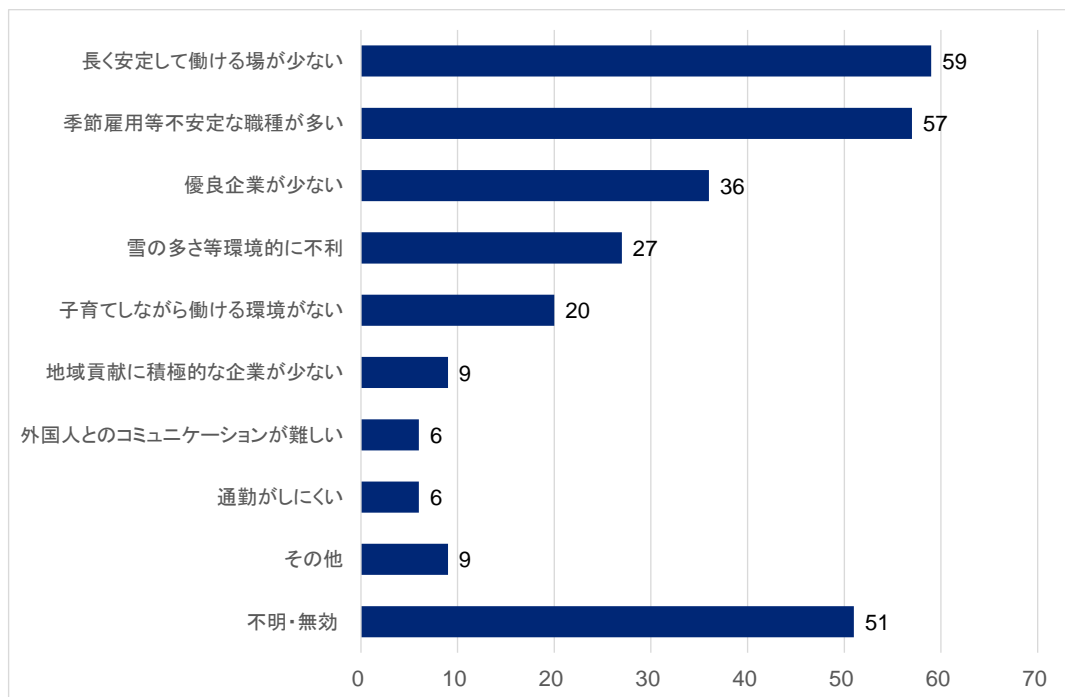
課題： 完全失業者数の増加傾向

<働きにくい理由（アンケート）>

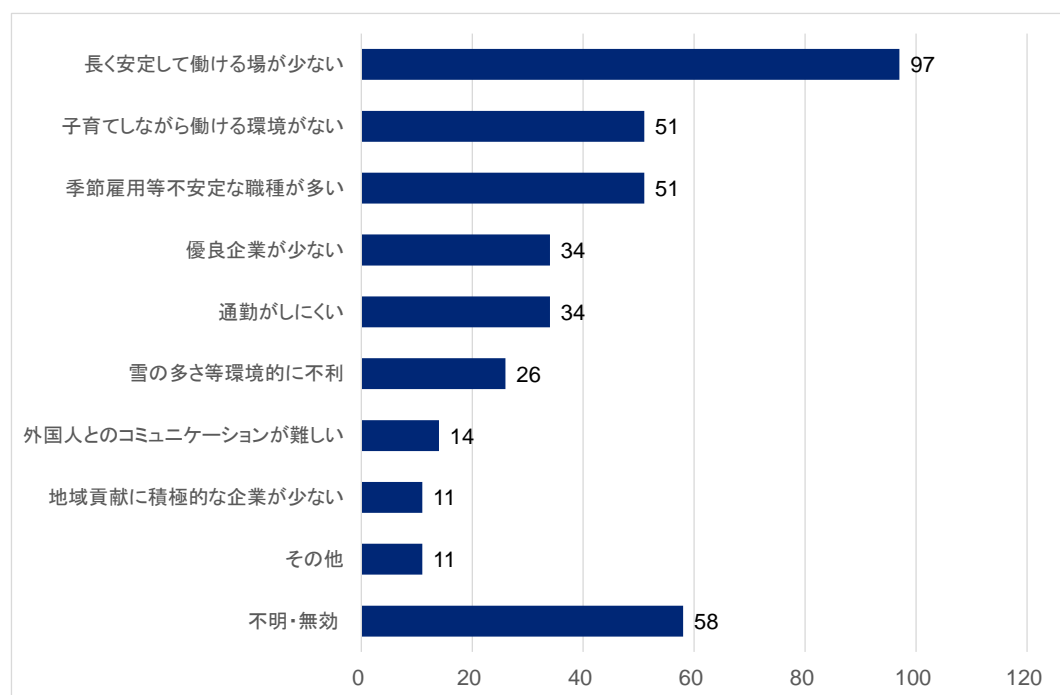
（出所：ニセコ町民アンケート（平成27年8月実施））

「長く安定して働ける場が少ない」や「季節雇用等不安定な職種が多い」が多く、特に女性は「子育てしながら働ける環境がない」も多い。

（男性）



（女性）

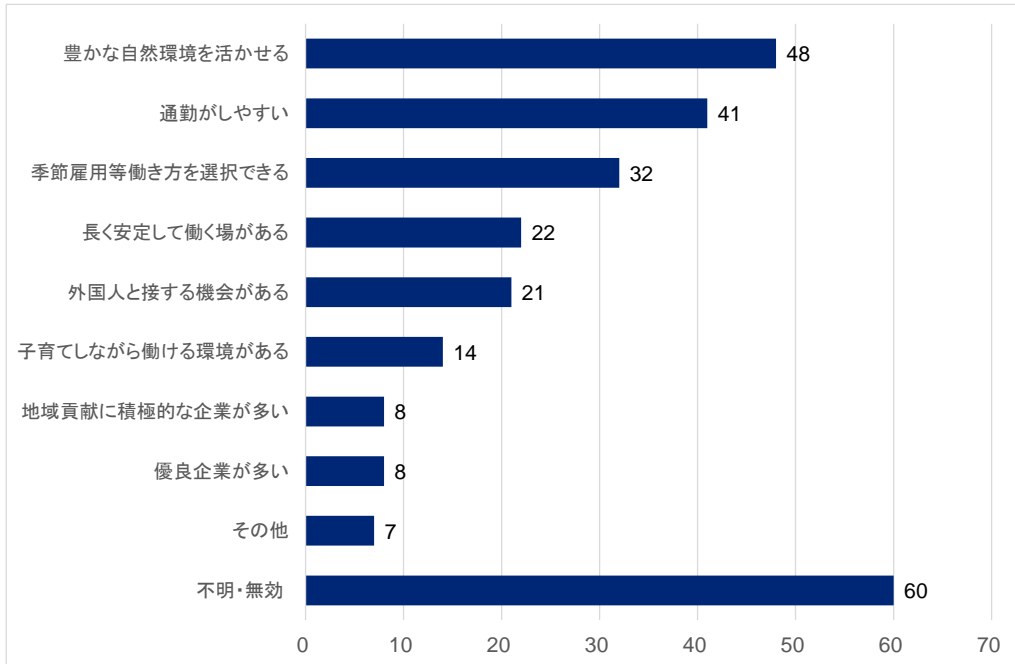


<働きやすい理由（アンケート）>

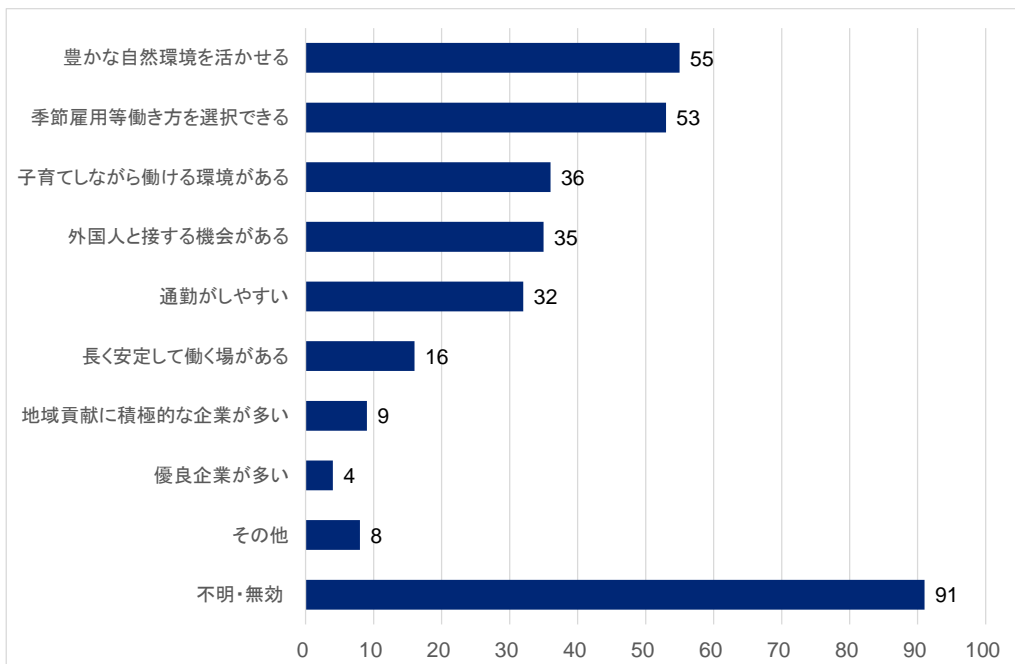
（出所：ニセコ町民アンケート（平成27年8月実施））

特に女性で「季節雇用等働き方を選択できる」、「子育てしながら働ける環境がある」が多く、季節雇用や子育てしながら働ける環境については、働きやすさ・働きにくさの両面から捉えられている。

（男性）



（女性）



イ 将来人口の推計と分析

＜出生率や移動率等について仮定値を変えた総人口推計の比較＞

合計特殊出生率、移動率とも現在の水準を保つと、2060年に2010年と同等の人口で推移することが推計できる。

また、住宅建設を考慮した推計方法として、例えば、「2020年度にかけての5年間で500人分の住宅を建設し、全て入居する」を仮定することも考えられる。

【別紙】

影響： 老年人口が増加していく可能性はないか？

＜将来人口に及ぼす自然増減、社会増減の影響度の分析＞

移動率をゼロと仮定すると劇的な人口減少が見込まれる推計結果が得られており、ニセコ町の人口は、自然増減よりも、社会増減による影響をより強く受ける。

【別紙】

ウ 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

＜地域住民の生活や地域経済、地方行政に与える影響についての分析・考察＞

（集落別人口）

人口を集落別に見ると、わずかな人口減少でも影響を受けるかも知れない集落もある

【今後精査】

影響： 集落単位では影響を受けてしまう可能性はないか？

2. 人口の将来展望

ア 将来展望に必要な調査・分析

イ 目指すべき将来の方向

ウ 人口の将来展望

自然増減

社会増減

将来人口の展望【推計方法】

自然増減では合計特殊出生率、社会増減では純移動率をパラメータに設定します

将来展望における仮定値の考え方

STEP.1		■ 町の方針を決定するため、将来展望を純移動率・合計特殊出生率を高・中・低位で仮定し、9パターンを推計			
将来展望の 仮推計	方針レベル	合計特殊出生率(2040年が最高値)		純移動率	
	高	人口置換水準(2.07)と仮定 (国の長期ビジョンにおける2040年時の仮定値)		若年層(15~19歳→20~24歳)の移動率が 過年度最高値まで上昇	
	中	過年度データの最高値(1.82)と仮定		直近移動率がこのまま続くと仮定	
	低	直近合計特殊出生率(1.45)が続くと仮定		現在プラスの年齢層の移動率が 2060年までにゼロになる仮定	

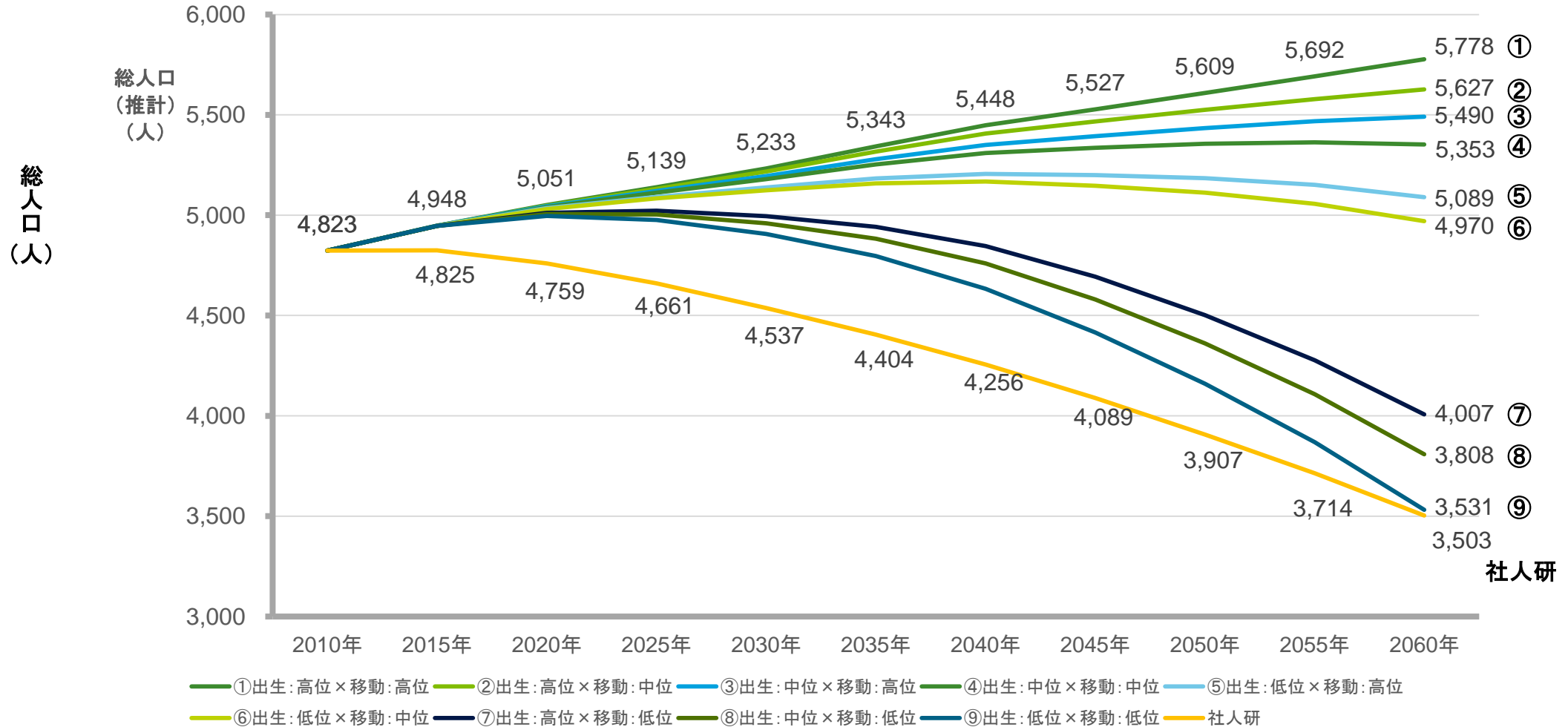
STEP.2		■ 総合戦略の基本目標や基本的方向と仮定値(合計特殊出生率・純移動率)を整合し、町としての将来展望を決定する				
#	方針	合計特殊出生率 (自然動態)	方針	純移動率 (社会動態)	推計結果	
					2040年	2060年
①	高	人口置換水準(2.07)と仮定	高	若年層*の移動率が過年度最高値まで上昇	5,448	5,778
②	高	人口置換水準(2.07)と仮定	中	直近移動率がこのまま続くと仮定	5,407	5,627
③	中	過年度データの最高値(1.82)と仮定	高	若年層*の移動率が過年度最高値まで上昇	5,350	5,490
④	中	過年度データの最高値(1.82)と仮定	中	直近移動率がこのまま続くと仮定	5,310	5,353
⑤	低	直近合計特殊出生率(1.45)が続くと仮定	高	若年層*の移動率が過年度最高値まで上昇	5,206	5,089
⑥	低	直近合計特殊出生率(1.45)が続くと仮定	中	直近移動率がこのまま続くと仮定	5,168	4,970
⑦	高	人口置換水準(2.07)と仮定	低	現在プラスの年齢層の移動率が 2060年までにゼロになる	4,846	4,007
⑧	中	過年度データの最高値(1.82)と仮定	低		4,759	3,808
⑨	低	直近合計特殊出生率(1.45)が続くと仮定	低		4,633	3,531

*: 若年層=15~19歳→20~24歳

将来人口の展望【推計結果(1)】

人口推計を踏まえ、自然増減・社会増減の仮定値をもとに将来の人口を展望します

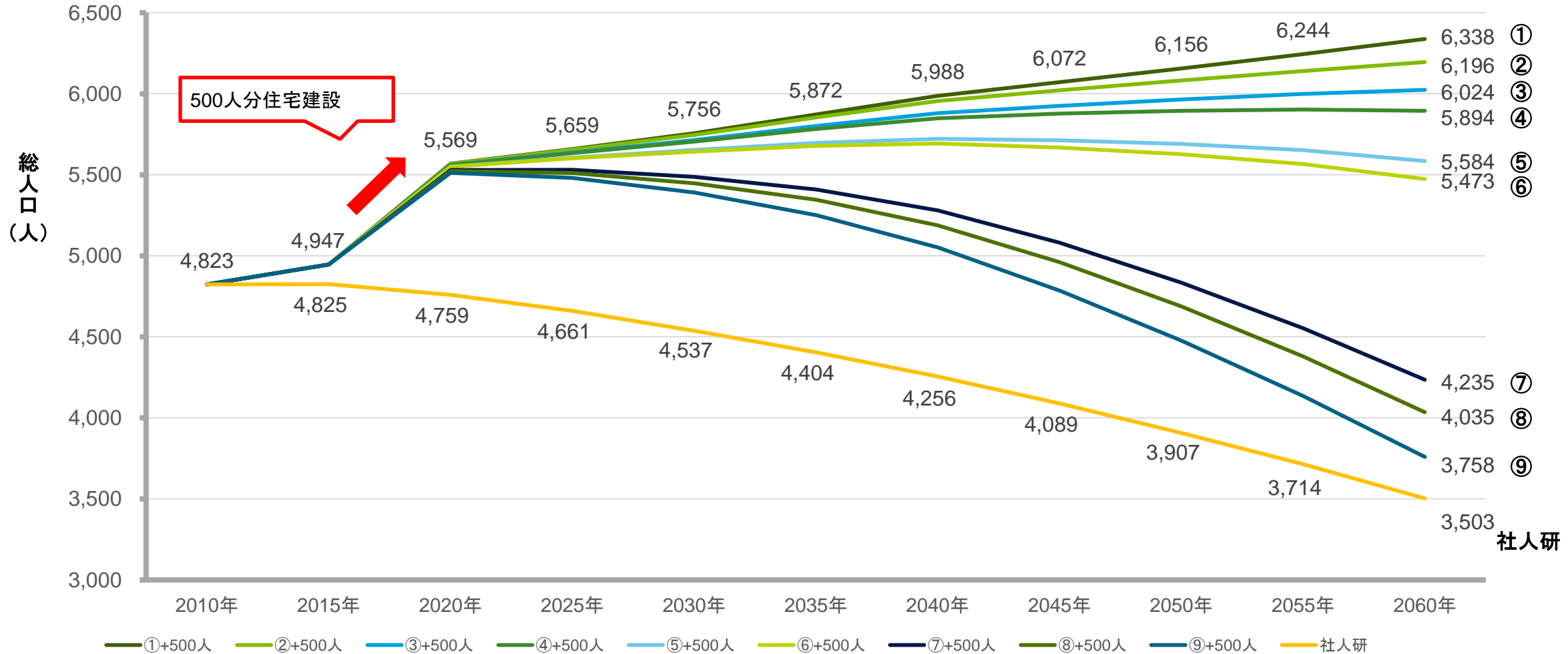
ニセコ町の将来人口展望9パターン



将来人口の展望【推計結果(2)】

2015年から2020年にかけて、500人分の住宅を建設し、100%埋まると仮定した場合

【住宅建設反映】ニセコ町将来展望9パターン



将来人口の推計

社人研とニセコ町総合計画では社会増減の推計方法と変化率の考え方が異なります

《参考》社人研とニセコ町総合計画における推計方法の違い

	推計方法	人口増減変化率の考え方
総合計画推計	<p>【コーホート*変化率法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コーホートごとの5年間の人口増減を軸に、人口の変化をとらえる方法 ■ 年齢別コーホート変化率(基準年次とその5年前の男女・年齢別人口の変化率)を使用して推計人口を算出(増減の要因は問わない) <p>(例)2015年の15~19歳の男性人口</p> $\left(\frac{2010年の15\sim19歳男性人口}{2005年の10\sim14歳人口} \right) \times \left(\frac{2010年の10\sim14歳の男性人口}{2010年の10\sim14歳の人口} \right)$	<p>将来も人口増減の変化率は大きく変化しない</p>
社人研推計	<p>【コーホート要因法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 時間変化(出生・死亡・移動)を軸に人口の変化をとらえる方法 ■ 基準年次の年齢別に、パラメータとして出生率、生存率、純移動率を仮定して、推計人口を算出する →基準年次の年齢別人口があり、さらに年齢別に生存率と順移動率が仮定できれば、人口推計が可能 生存率 : 生命表による5年後の男女・年齢別出生率 純移動率 : 基準年次とその5年前からの社会動態による純移動率 <p>*コーホートとは、同年(同期間)に発生した集団 (例)平成22年国勢調査時の20~24歳の男性</p>	<p>将来、社会増減の変化率が変化する(社会増減が縮小)</p>

出所:社人研「日本の地域別将来推計人口」(平成25年)

将来人口の展望

社人研推計の計算過程では、人口移動が大きい自治体ほど移動率が小さくなります

《参考》社人研推計と国提供データファイルに基づいた推計における推計値の差異

	移動率の計算方法	移動率の修正
国提供データファイル	<ul style="list-style-type: none"> 2回分の国勢調査のデータをもとに移動率を算出 (例)2005→2010年の0～4歳→5～9歳の純移動率 $= \frac{2005 \rightarrow 2010 \text{年の} 0 \sim 4 \text{歳} \rightarrow 5 \sim 9 \text{歳の純移動数}}{2005 \text{年の} 0 \sim 4 \text{歳人口}}$	—
社人研推計	<ul style="list-style-type: none"> 国提供データファイルの方法と同様に算出 算出後、分子の準移動数がプラスの場合に、分母人口を変化させる (例)分子の純移動数がプラスの場合 $= \frac{2005 \rightarrow 2010 \text{年の} 0 \sim 4 \text{歳} \rightarrow 5 \sim 9 \text{歳の純移動数}}{(\text{全国の} 2005 \text{年の} 0 \sim 4 \text{歳人口}) - (\text{当該自治体の} 2005 \text{年の} 0 \sim 4 \text{歳人口})}$ <p>※ 純移動数がプラスの場合、基準人口が将来に向かって増加し続けてしまうため、分母人口を上記の通りすることで、その影響を軽減させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 左記方法にて算出した移動率に対し、2015年までに0.707倍、2020年には0.5倍に縮小するものと想定している 上記の根拠としては将来的に全国的に人口移動が縮小する、という上述社人研の考え方があり、全国一律に縮小させている

将来人口の展望

社人研の計算方法と過去実績データに基づき、将来展望人口を推計します

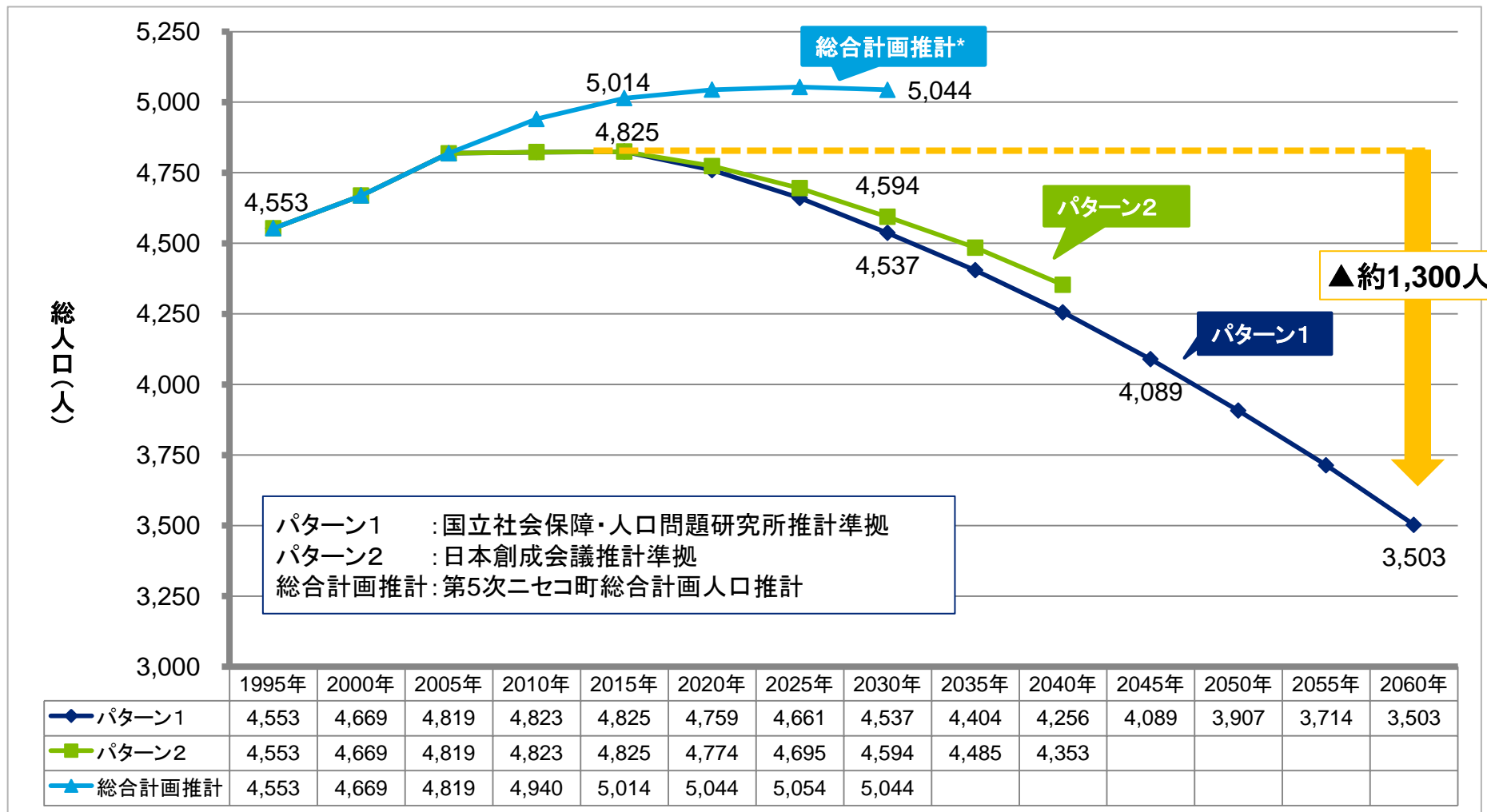
《参考》ニセコ町の将来展望推計人口の算出方法

	推計方法	純移動率の計算方法
ニセコ町 将来展望推計人口	<p style="text-align: center;">社人研推計の計算方法</p> <p>【コーホート要因法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 時間変化(出生・死亡・移動)を軸に人口の変化をとらえる方法 ■ 基準年次の年齢別に、パラメータとして出生率、生存率、純移動率を仮定して推計人口を算出する 	<p style="text-align: center;">国提供データの移動率</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 2回分の国勢調査のデータをもとに純移動率を算出 (例)2005→2010年の0～4歳→5～9歳の純移動率 $= \frac{\text{2005→2010年の0～4歳→5～9歳の純移動数}}{\text{2005年の0～4歳人口}}$
根拠	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合戦略で出生や移動に関して施策を打ったと仮定して、推計をすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社人研のように純移動率に修正をしてしまうと、足元で人口が増えているニセコ町の現状とかい離してしまう
具体的推計方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 合計特殊出生率と純移動率をパラメータとして設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 過去実績値を参考に、純移動率のパラメータを設定する

将来人口の推計

社人研は2060年に約3,500人まで人口が縮小(▲約1,300人)すると推計しています

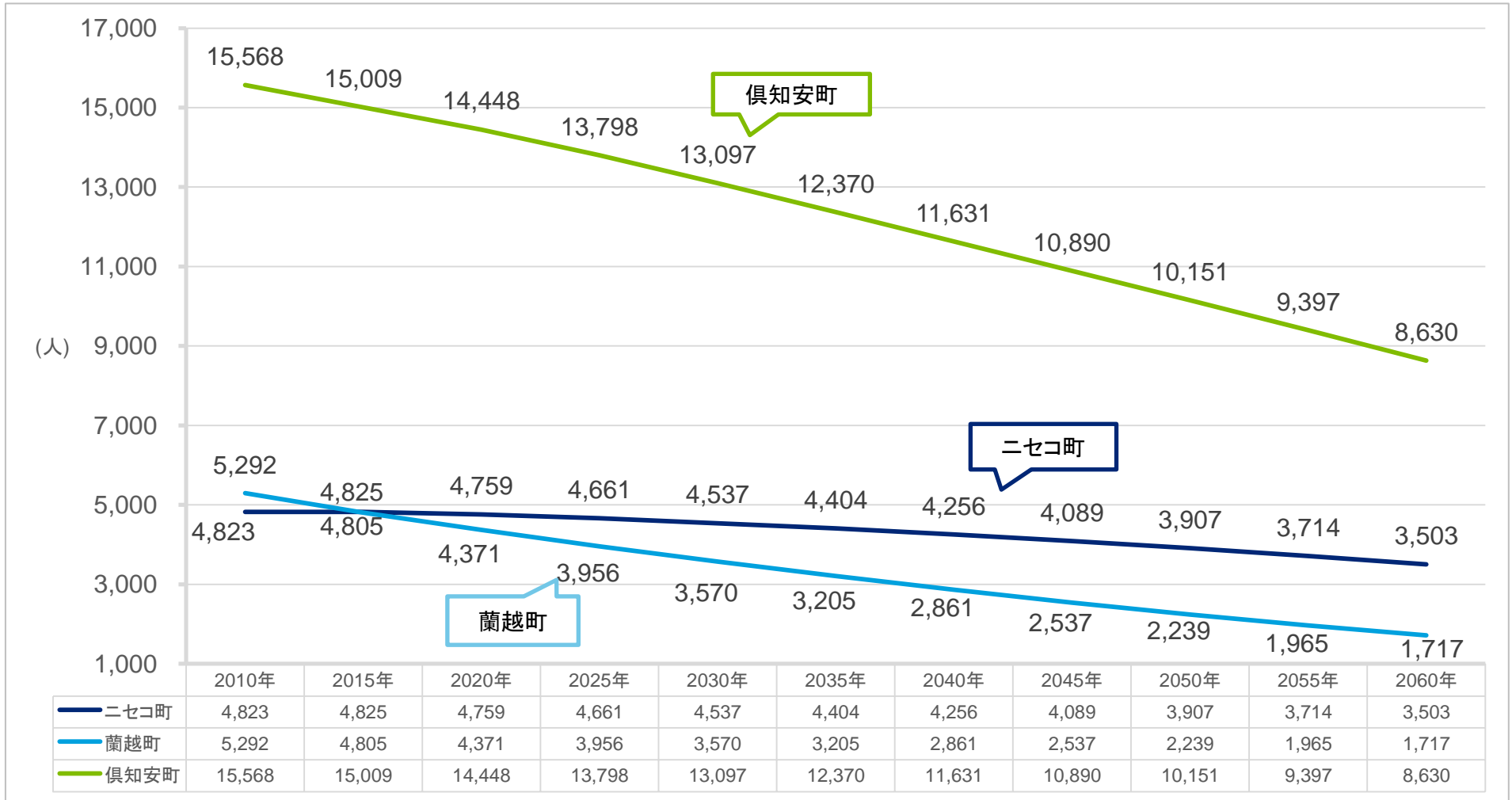
ニセコ町の将来人口推計



*: 社人研推計との人口推計方法の違いについては後述参照

社人研の推計結果では、蘭越町、倶知安町ともに2060年にかけて人口減少傾向となっていますが、ニセコ町の人口減少傾向は最も緩やかです

社人研推計の比較

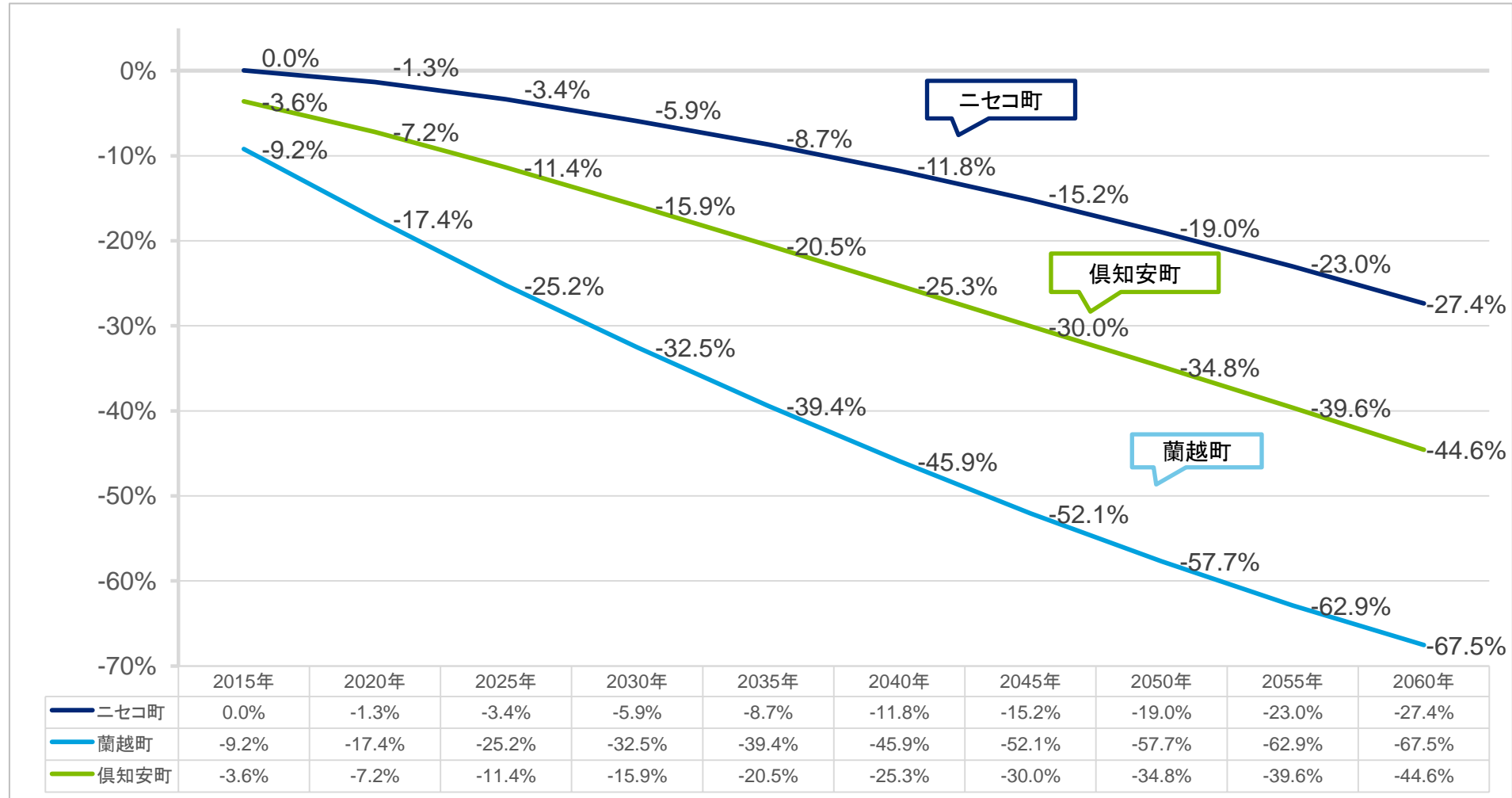


- ニセコ町だけ、総人口が一時的に増加すると推計されています(2010年→2015年)
- 蘭越町では2010年に5,292人であった総人口は、2060年までに1,717人まで減少すると推計されています
- 倶知安町では2010年に15,568人であった総人口は、2060年までに8,630人まで減少すると推計されています

出所： 国勢調査(2010年)、社人研推計(2015年～2060年)

2010年人口を基準とした2060年までの人口減少率を比較してみると、ニセコ町は俱知安町、蘭越町と比較して減少率が緩やかになっています

社人研推計の減少率比較



- ニセコ町の場合、2060年の人口は、2010年の人口と比較して-27.4%減少すると推計されています
- 蘭越町の場合、2060年の人口は、2010年の人口と比較して-67.5%減少すると推計されています
- 俱知安町の場合、2060年の人口は、2010年の人口と比較して-44.6%減少すると推計されています
- ニセコ町は俱知安町、蘭越町と比較して、将来の人口減少ペースが緩やかになっています

出所： 国勢調査(2010年)、社人研推計(2015年～2060年)